

地域型センターの具体的取組事例

Nピア事業を活用した認知症サポーター養成講座

(ほっとかん地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

認知症基本法の施行に伴い、認知症当事者の社会参加支援及び地域への正しい理解の啓発等が必要。

②取組内容・工夫したこと

地区内にある大学の学生向けに「認知症サポーター養成講座」を開催！

認知症に関して正しい知識を持っていただける様に…

Nピアさん本人・奥様に登壇して頂き、
当事者目線・それを支えるご家族様目線での生活の事
についてインタビュー形式にてお話をして頂きました。

2日程開催し、合計で32名
の方に参加をして頂きました。

認知症の人への理解について



■よく理解
できた
■理解でき
た

Nピアさんが作成し
た資料を元に体験
等についてお話を
させて頂きました。

③効果（見込み）

アンケート内感想にて、

- 受講前は認知症の方のお話を聞くことに不安があったが、実際に本人やその家族の方のお話を聞く中で、やさしく接すればよいという事が分かった。
- 実際に当事者の話を聞くことで、認知症に対する関心が深まった等の意見多数あった。

新しい認知症観の啓発に繋がった。



「介護者のつどい」でリフレッシュ

(ぬくもりの里包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

ぬくもりの里包括支援センター主催で長年開催している「介護者のつどい」開催を続けることに意義はあるけど、内容がマンネリ化してしまっていた。

②取組内容・工夫したこと

参加者と共に企画を練る

⇒参加者から出てきたニーズ
「認知症についてもっと学びたい」
「地域の施設見学に行きたい」
「勉強の要素だけでなく楽しいこともしたい」
ニーズを基に企画を実現！

↓地域のGHの施設見学＆ランチミーティング 参加12名



↓豚汁を作って食べてあったまろう 参加8名



③効果（見込み）

「地域の施設を見学できて
家族、自身の安心につな
がった。」「わいわい交流
してリラックスした雰囲気
で話せてよかった。」等、
ご好評いただきました。
今後もニーズを拾いながら
企画を練っていきます。

①目指す姿・困っていたこと

- 当事者・家族の参加が少なく、気軽に参加できる場にしたい。
- 「私にはまだ早い、関係ない」という雰囲気があり、「我が事」として考えられる機会を持てる場にしたい。

②取組内容・工夫したこと

認知症カフェで認知症すごろくやVR体験を通して認知症の方の世界観を体験してもらいました♪

工夫したこと

①認知症すごろく

止まったマス内容について「私も介護保険利用してるのよ～」などと話が盛り上がりました。少しずつ認知症が進行していく様子が分かって、地域での生活についても確認ができたようでした。



②VR体験

VRで体験後、当事者の方の声も聴いてもらいました。近所の方の対応に困っていた参加者からは「そういうことだったのか～！」との感想もありました。



③周知方法

全戸回覧に加えて、調整会議でチラシを配布し、ケアマネジャーや事業所にも周知をし、当事者・家族の参加につながりました。



介護支援センターつばさ・愛の家グループホーム豊田松ヶ枝・社協包括の3社で共催開催。地域に開かれた事業所との共同開催で行っています。

③効果（見込み）

- すごろくを通して、自分の体験を話しながら、我が事として交流することができた。
- 隣人の対応に悩んでいた方からは、VR体験を通して当事者の気持ちを知り、今後の地域での見守りの意識を持ってもらうことができた。
- 周知方法を変更したことにより、ケアマネジャーから紹介していただいた家族と当事者に参加してもらうことができた。

①目指す姿・困っていたこと

目指す姿

中学1年生で認知症サポーター養成講座を受けてサポーターとなったが…

何をやったのか覚えていない

聞いたことを忘れてしまった

2年生でステップアップ講座を行い、再度、認知症について知ってもらう

②取組内容・工夫したこと

取組内容

1年生の時に認知症サポーター養成講座を受けた中学生に対して一年後に認知症ステップアップ講座を実施。

工夫



認知症サポーター養成講座によって得た学びを振り返るためのツールとして4択クイズを採用し、生徒はグループを編成して解答。相談を必要とするレベルのやや難しめの問題を設定して生徒の思考を促した。



包括職員の体験談や卒業生の活動を紹介することにより、支援者の存在を身近に感じてもらえるように心がけた。



旅のことはカードから印象に残ったものを選び、グループで共有。カードは「家族」や「みんな」に厳選し、中学生が強く関心を持ちそうな内容を取り上げ、カードに示された場面について、サポーターとして今の自分のできることを積極的に考える機会を設けた。



地域の認知症の相談窓口として、中学生に「足助地域包括支援センター」を知ってもらうこと。さらに持ち帰った資料をもとに家族との話し合いを勧め、多世代間における包括支援センターのPRへとつながられるようにした。



講座の一場面



③効果（見込み）

- 😊 1年生で認知症サポーター養成講座、2年生でステップアップ講座を開催し、サポーターの学びに連続性を持たせる
- 😊 講座の資料を自宅に持ち帰り、家族と話し合う場を作り、多世代間への包括PRにつなげる
- 😊 進学、就職した卒業生が地域においてサポーターとして活動するため、包括がつなぎ役となる

①目指す姿・困っていたこと

認知症になっても安心して過ごすことができ、気軽に外出できる地域になるためには、今よりもさらに多くの世代の住民が認知症への理解を深めてもらいたい！

③効果（見込み）

- 子どもが興味を持ち、足をとめてくれたことで、同行の両親や祖父母世代への情報提供につながった
- 認知症について実感のない世代への啓発の場になった

②取組内容・工夫したこと



バルーンで作った
ロバ隊長も一役

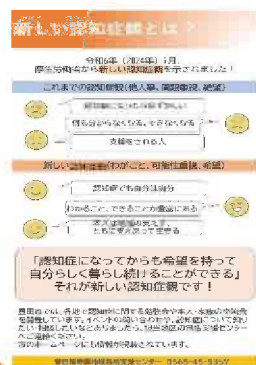
『ストロベリーパークみふね』
イベント参加！

子どもからその親世代、高齢者までイベントに訪れた方対象に、包括の役割やこれってもの忘れ、本の紹介、さらに新しい認知症観について紹介



・興味を持つ
きっかけになる
ツールを複数準備

・認知症への
イメージ変換や
知識を深めて
もらえるように
資料を配布



(東広瀬小学校3年生 認知症サポーター養成講座を通して)

『石野の里』 えがおプロジェクト

(石野の里地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

- 小学校の先生と連携し、地域の子もたちに認知症への正しい知識と支援方法を学んでいただくことで、認知症への理解を促す。そして、認知症の方やご家族が少しでも安心して暮らせる地域としたい。
- 新型コロナウイルス感染症で長期にわたって学校との関係が途絶えており、連携ができていない。

③効果（見込み）

- ① 児童が能動的に認知症について学ぶことで関心を促し、認知症を理解するきっかけをつくることができた。児童だけでなく先生方にも認知症を理解していただく機会となった。また、講座だけでなく2回の交流を通して、より地域の高齢者の方を知っていただくことができた。
- ② 今回の取組を通じ、東広瀬小学校の先生や児童の方と顔の見える顔の見える関係をつくることができ、ネットワークの構築につながった。

②取組内容・工夫したこと

① 児童のための
「認知症サポーター養成講座」

認知症の症状や接し方についてテキストや寸劇、カルタなどのグッズを使ったり、ロールプレイを行い、学んでいただいた。



(寸劇で児童に扮する包括職員) (認知症カルタの様子)

★授業で社会福祉協議会の「高齢者疑似体験」があった

② 第1回 石野の里交流会

講座等で学んだことを基に、先生と一緒に交流会のプログラム内容（合唱、各参加者歓談、折り紙プレゼント、ジェスチャーゲーム）を企画。石野の里で地域の高齢者や利用者の方と交流会を実施した。



(交流会の様子)

交流会参加者や職員からの感想をフィードバック

④ 第2回 石野の里交流会

アップデートしたプログラムでの交流会。合唱は、高齢者の方も知っている歌を選曲。歌詞カードを配布し一緒に歌う。ジェスチャーゲームは、より多くの高齢者の方が参加できるようにスポーツを加えたり、大きく手を振り、何回も行ったりしながら児童も高齢者も参加型で盛り上がり、お互いに楽しくふれあい、楽しいひと時を過ごすことができた。

③ 振り返りとアップデート

担任の先生が、第1回交流会の振り返りと児童主体で更に「えがお」になれる交流会を話し合う。第2回交流会のプログラム内容（合唱曲、ジェスチャーゲームなど）を決定。

体験を通じて認知症を身近に感じてほしい！

いなぶ包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

稲武地区は高齢化率50%以上
認知症はとても身近な病気であり
今後さらに住民の理解が必要になる。



見る・聞く・体感するなど色々な体験をとらえて認知症を我がごととして捉える機会をつくりたい。

③効果（見込み）

（1）認知症VR体験

- ・10代からの幅広い年齢層に体験してもらうことができた。
- ・認知症を我がごととして捉える機会を提供できた。

（2）認知症書籍展示

- ・自分の知りたいことを自分で選び学べる機会となった。

（3）映画会

- ・映像を用いてわかりやすく認知症への理解を深めた。

（4）取組全般

- ・包括支援センターのPRができた。

②取組内容・工夫したこと

（1）認知症VR体験

○工夫したこと

- ・多世代が体験できるように体験会の開催場所と機会を増やした！（ふれあい祭り、区長会、コミュニティ福祉部会、職員等）
- ・新しい認知症観への理解促進と認知症啓発、同時に相談会も実施。
- ・体験後にアンケートを実施し、振り返りを丁寧に行った。



（2）認知症書籍展示

○工夫したこと

- ・事前に展示する書籍を選定し、幅広く展示するようにした（期間中は借りることが可能）
- ・あらかじめ広報誌でPR



（3）映画上映会

○工夫したこと

- ・交流館、コミュニティ福祉部会との連携（開催協力）
- ・認知症書籍等の展示と啓発
- ・参加者からの相談を受付



ささえあいネット登録機関と協力！包括PR！！

（豊田地域ケア支援センター）

①目指す姿・困っていたこと

「場所が分かりにくい」という意見を多数いただいたことがある。

～目指す姿～

地域の方に豊田地域ケア支援センターのことを知っていただくための場を増やしていきたい。

③効果（見込み）

- 案内図を見て、連絡先窓口がわかるようになった。
- 地域のお店や事業所に掲示することで、自治区に加盟していない方も目にする事ができる。
- ささえあい登録機関が包括を案内する際に案内図を使用できるようになった。

②取組内容・工夫したこと

～取組内容～

○写真付きで医療センター出入口から窓口までの案内図を作成。

また、市内全包括支援センターの住所と連絡先を合わせて案内図に載せ、ささえあいネット登録機関に掲示を依頼した。



～工夫したこと～

- 案内図が載った季刊誌を回覧板で配布した。
- また、自治区に加盟していない方にも行き届くよう、住民の方がよく通われる地域のお店やささえあいネット登録機関に案内図を掲示していただいた。
- 区民会館や交流館にも掲示を依頼し、目に留まる機会を増やした。



認知症ワークショップの開催～活動者創出の取り組み～

(ふくしの里包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

認サポ受講後に認知症支援の活動者として継続的に関わる人がいない現状。

受講修了者が自ら活動者となり、認知症啓発活動ができる仕組みを作りたい。

③効果（見込み）

○年間4回の参加を通して、参加者が当事者目線や今後の自分のあるべき立場などの理解が深まった。
○次年度以降も包括と共に啓発の取り組みの仲間になってもらえることが期待できる。

②取組内容・工夫したこと

3回シリーズのワークショップ形式。

1, 2回目はステップアップ講座を受講、知識を高め、参加者同士の仲間意識を醸成した上で、包括とともに地域イベントに参加認知症啓発活動を行った。

1回目 ミニ講座とVR体験



2回目 認知症当事者の方の講話と、座談会



3回目 小原交流館イベント 認知症啓発、ロボ隊長マスコット作成スタッフとして活動



臨時で4回目 振り返り会を実施。ワークショップ参加の感想、次年度活動内容の提案をもらった



チーム名決定

ロボのサポート隊 おばら

自治区等での活動を通し認知症の理解・協力依頼への取り組み

(地域包括支援センターかずえの郷)

①目指す姿・困っていたこと

年々、認知症に関する相談が増え、個別での相談がコロナ禍以降、毎年70件以上となっている。

顔なじみの方たちと共に住み慣れた地域で生活を続けられる地域作りを目指し取り組みを行っている。

③効果（見込み）

○上郷地区内で、行方不明との連絡を受けた際、区長・民生委員へ連絡。自治区の協力を得て、警察へ届ける前に発見に至った。

○認知症の方が再び自治区サロンに参加。

認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座、徘徊高齢者等搜索模擬訓練が活かされた。

②取組内容・工夫したこと

○認知症への理解

認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座 寸劇の実施



○新しい認知症観への理解

これってもの忘れ？を活用。



○かえるメール登録依頼

毎年開催する地域ケア全体会（区長・民生委員）自治区サロン 認知症カフェ 認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座 ささえあいネットワーク会議



○2012年より徘徊高齢者搜索模擬訓練を実施

搜索隊を作り町内を搜索。徘徊高齢者（役）への声掛けを体験。



①目指す姿・困っていたこと

- 認知症サポーター養成講座の開催は行っているが高年齢層の参加が多く、若年世代の認知症の啓発ができていない
- あらゆる世代が認知症に関心を持ち、地域で温かく見守る応援者を増やしたい

③効果（見込み）

- 日程を分け学年別に実施を行ったことで**理解度にあった学びの場**を作ることができ、認知症の理解を深める機会となった。
- 学校や放課後児童クラブへチラシを配布したことで、**保護者世代へも認知症の啓発**や地域包括支援センターの周知にもつながった。

②取組内容・工夫したこと

夏休み期間を利用し、小学校低学年・高学年・中学生を対象に**認知症サポーター養成講座**の内容を変え3日間にわけて開催



より多くの方に参加いただけるよう、自治体の回覧、学校にチラシの配布、放課後児童クラブへの声掛けを行った。



認知症に関する基礎知識の他、認知症予防体操やゲームを取り入れ楽しみながら学べる工夫を行った。



グループホームの入居者様に協力いただいた、ロバ隊長のマスコットとオリジナル缶バッジを参加賞としてお渡しした。



興味を持ってもらうようにオリジナルキャラクターの作成も行った。



オリジナルキャラクター

ロバ隊長のマスコット
オリジナル缶バッジ



愛知県警察 防犯活動専門チーム「のぞみ」による特殊詐欺注意喚起

こささの里地域包括支援センター

①目指す姿・困っていたこと

- 「架空料金請求詐欺」や「還付金詐欺」といった特殊詐欺の被害が増えているが、「用心深い私は絶対騙されない・テレビの中のこと・遠い所のこと」と思って危機感が高くない。身近に被害が及んでいる事を自覚してもらい、ひとりひとりに危機感を持ってもらうことで被害防止を図る

③効果（見込み）

- 寸劇を楽しく観て自分にも起こり得ること、被害は身近なことということを理解してもらい危機感を持ってもらえた
- 警察官から被害のあった実際の**手口を紹介**してもらい臨場感を持ててもらえた
- 国際電話の着信ブロックをしてもらい被害を未然に防ぐ支援ができた

②取組内容・工夫したこと

- 愛知県警察 防犯活動専門チーム「のぞみ」に依頼し地域の高齢者クラブへ特殊詐欺に対する**寸劇を取り入れた防犯教室**を実施した

- 「のぞみ」は人気があり予約を取るのが困難なため、前年度末から豊田警察署生活安全課に相談する等事前準備を徹底

- 多くの方に参加してもらえるように事前に高齢者クラブ会長と打ち合わせを実施

- 豊田警察署生活安全課に「国際電話の着信ブロック」の説明をもらい、希望者はその場でブロック

- 参加者から警察官に質問してもらい、より具体的な対策案を教えてもらう



ささえあいネット協力機関で介護者のつどいを開催

(まどいの丘包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

【目指す姿】

介護者同士が苦労や工夫を分かちあい、リフレッシュできる機会を作れるよう、地域でのピアサポートの場を作る。

【困っていたこと】

- ・介護者のつどいの参加者の減少
- ・開催場所や内容のマンネリ化
- ・「みんなでお茶や食事がしたい」とのリクエストが多数
- ・開催準備の業務負担
- ・ささえあいネット登録機関との連携強化

③効果（見込み）

- ◎参加者7人中6人の方が初参加。
- ◎参加のきっかけとして「参加しやすい時間帯だった」という声もあがる。
- ◎会終了後に介護者同士が連絡先を交換するなど**自主的な交流につながった。**
- ◎開催前後の準備が減り、包括の業務負担が軽減した。
- ◎次回以降も場所の提供を承諾してくださり、**関係性を強化**できた。

②取組内容・工夫したこと



地域の喫茶店(ささえあいネット協力機関)にて介護者のつどいを開催

事前

喫茶店に事業の説明と協力依頼。
お店側の配慮により、事前に席の確保や話しやすいようにレイアウトを調整して下さる。

事前

包括にて案内チラシを作成し、自治区回覧、ケアマネジャーに依頼し周知。

当日

認知症に関することや豊田市の福祉サービス等について、パンフレットを用いて情報提供(10分程度)
座談会(1時間20分)

昨年までの参加者の声をもとに改善・工夫



「ちょっとお出かけがしたい・・・」

- ★バスでも車でも参加しやすい場所
- ★好きなものを自由に注文
- ★包括とささえあいネット登録機関が協働することで関係性を強化



「勉強もいいけどゆっくり話がしたい」

- ★講座中心から座談会中心の内容に変更
- ★時間を気にせず話せるように、午前中開催に変更



自治区の防災訓練で電動カートの試乗会を開催

(豊田厚生地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

受診や買い物などの移動に課題を抱えている高齢者が多い



- ・車が手放せない
- ・1区間でもバスを利用
- ・自宅から出られない・・・

③効果（見込み）

- 車の運転を辞めた後の一つの**代替手段として検討**していただく機会となった。
- 足が悪い方の災害時の避難にも活用できるのでは、という声もあがった。
- 浄水地域会議では、自治区内での**電動カートのシェア**について検討中。

②取組内容・工夫したこと

浄水地域会議のメンバーとの意見交換

既存のバスは本数が少なく利用しにくい

そもそもバス停までに坂道があり、利用できない人もいるのでは



コミュニティバスを再開したいが、運転手の確保が難しい

ヘルパーによる買い物、移動販売、電動カートを利用している人もいます

自治区で電動カートのシェアができないか？坂道が多い中で利用できるのか試してみたい！

自治区の防災訓練で電動カートの試乗会を企画

四輪と三輪を体験♪
坂道や細い道のカーブ、段差など問題なく走行することが出来た！



ふれあい祭りにて認知症啓発イベント開催

(みなみ福寿園地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

【目指す姿】

- 認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指す。
- 困った時に地域住民が声をかけられる環境
- 認知症の方や家族が地域で孤立しない社会

【困っていたこと】

- 認知症を人に知られたくない感覚
- 家族で介護を抱えこんでしまう

③効果（見込み）

- 地域の祭りで啓発イベントを行うことで、福祉に関心のある人だけでなく、幅広い世代の地域住民に対し認知症について周知することができた

- 認知症カフェ、家族介護交流会、相談窓口についても周知ができた

②取組内容・工夫したこと

**1 1月7日（日） 渡刈ふれあいまつりにて
認知症への理解を深めて頂くことを目的とし、
認知症啓発イベントを開催しました！**

【取り組み内容】

- ①「これってもの忘れ」を利用し、認知症チェック、新しい認知症観のについての説明
- ②相談コーナー
(認知症カフェ、家族介護交流会等のチラシ配布)
- ③子供向けのイベントしてペーパークラフトによるロバ隊長作り、ぬりえを行いました。



ロバ隊長作ったよ！

早めに相談することが大切ですね

働くことをあきらめないための支援

(ひまわり邸地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

目指す姿

地域で働きたい高齢者・2号被保険者が働き続けられるよう支援したい

困っていたこと

就労支援や障がい事業所などの知識が少なく、どこに連携したら良いかわからなかった

③効果（見込み）

相談があったときの連携先が分かり、障がい事業所と情報交換や困りごとの共有ができた。

連携がしやすくなりました



②取組内容・工夫したこと

障がい事業所の調査をしました。

就労移行支援事業所「働くの窓口」担当者が来所してくれ働きたい人が実際に就職するまでの流れや制度についての話を聞き連携ができました。



就労継続支援B型事業所「ダンデライオン」訪問し情報共有しました。部品の解体・金属の分別、遺品整理などリサイクル事業をしているため、働きたい方、ゴミの片づけが必要な方に紹介できることがわかりました。



障がい事業所にお仕事依頼しました

- 豊田市障がい者総合支援センターけやきワークス
→ノベルティグッズのゴミ袋
- 就労継続支援B型アイビス豊田GAZA
→ノベルティグッズのトートバッグ
- とよた多世代参加プロジェクト
→ささえあいネットワーク機関への郵便物封入作業



①目指す姿・困っていたこと

～目指す姿～

地域住民が口腔機能の低下(オーラルフレイル)に早期に気づき、予防行動を日常的に実践できる。

- ・口腔ケアの重要性を理解していない
- ・自分の口の状態に関心が薄い
- ・正しいケア方法を知らない

課題

「気づき」や「行動変容」につながる機会が不足

②取組内容・工夫したこと

市のオーラルフレイル予防啓発として、お喜楽カフェで講座を開催

塚本歯科医院にご協力いただき
口腔体操や口腔ケアを行いました



いつもはカラオケやおしゃべりを楽しむ「お喜楽カフェ」。本日の活動では、先生から「オーラルフレイル予防にはカラオケがとても効果的」との嬉しいお言葉をいただきました。

お口のさわやかエクササイズ

- ①深呼吸(腹式呼吸)
- ②首の運動
- ③肩の運動
- ④口の運動
- ⑤舌の運動
- ⑥発音の練習
- ⑦唾液腺マッサージ



市から配布された歯ブラシを使ってみんなで歯磨き



③効果(見込み)

1.口腔ケアへの関心が向上

大切さを理解し、自宅での実践意欲が高まった。

2.健康維持への効果が期待

オーラルフレイルの早期予防につながり、誤嚥性肺炎やフレイルのリスク低減が見込まれる。

3.定期受診の意識づけ

虫歯がなくても歯科受診する重要性を認識できた。

地域ふれあい食堂「サンくらがいけ」での
チームオレンジに向けた取り組み

(地域包括支援センターくらがいけ)

①目指す姿・困っていたこと

毎月第2日曜日開催の地域ふれあい食堂「サンくらがいけ」で認知症当事者、ご家族と高橋中学校のボランティア部の生徒が交流しているが、生徒達に認知症の正しい知識や理解がある訳ではなかった。

高橋中学校
ボランティア部向け

②取組内容・工夫したこと

R7.7月認知症サポーター養成講座



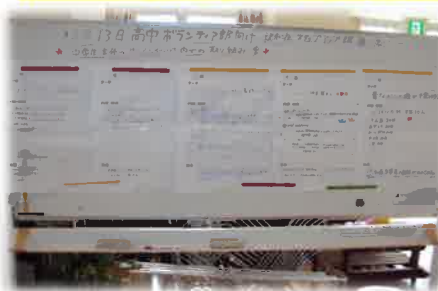
7月の認サポではNピア活用し、認知症に対する正しい知識と併せて当事者の気持ちを知ってもらうきっかけ作りをした

③効果(見込み)

○「サンくらがいけ」がチームオレンジになったことにより、中学生主体で認知症当事者、ご家族を見守る機運が生まれた。

○この取り組みが「とよたNOW」の取材を受け、ひまわりネットで放映されたことで全市的に広く周知できた。

R7.12月ステップアップ講座



12月のステップアップ講座は5つの班に分かれて「中学生主体で行うチームオレンジの取り組み」をテーマに企画、立案、プレゼンを行ってもらった

①目指す姿・困っていたこと

- コロナ等の関係で、ふじのさと包括では2017年以降ささえあいネット協力会議を実施できていなかった。
協力機関の方から、開催を望む声があった。
- 協力機関向けに啓発のためのチラシを渡すも、店主や従業員が代わっていることがあり、制度の理解が不十分と感ずることがあった。

②取組内容・工夫したこと

取組内容

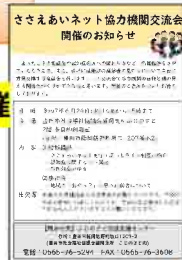
R7.6月ささえあいネット協力会議を開催

前半に制度の趣旨説明、認知症ミニ講座、事例紹介を実施。後半には座談会として、地域の気になる高齢者について情報共有を行った。

工夫点

満足感を得てもらえるよう、協力機関にとって有益な情報を伝えることを意識し、内容を検討。

- ・ささえあいネット制度の趣旨説明は実施主体である豊田市委託高齢福祉課の職員に依頼し、その他の認知症関連の市の取り組みなども説明していただいた。
- ・認知症ミニ講座では藤岡地区の高齢化の現状を説明。また、**認知症の方がお店等でどんな困難が生じるか説明し、異変に気付くための視点をお伝えした。**
- ・事例紹介では実際に相談のあった事例について包括がとる対応を説明し、どのような支援に繋ぐことができたか紹介した。
- ・座談会では5、6人のグループをつくり、各グループに包括職員をファシリテーターとして配置した。



③効果（見込み）

- 参加者
57の登録機関のうち**13機関が参加。**
- 5段階のアンケート評価
9割以上が満足と回答
- 昨年度と比較
通報件数は大きく変わらないが、これまで相談のなかった協力機関から相談をいただくようになった。
- 結果
次年度も開催を希望する声があり、関心の高さを感ずられた。

地域みんなで取り組む!! 認知症啓発活動

(地域包括支援センター藤岡の楽園)

①目指す姿・困っていたこと

認知症の方や高齢者が楽しみや生きがいを持って自分らしく過ごせる。

認知症の理解者・支援者が地域で活躍できる。

②取組内容・工夫したこと

認知症の方と、地域住民が一体となって活動を展開!!



- ① 認知症カフェ楽園タイムの参加者で認知症サポーターキャラバンマスコットロバ隊長の飾り付け・袋詰め



- ④ 認知症予防の実践に向け、地域の方の健康の秘訣をガチャガチャにしてお届け

③効果（見込み）

○地域団体と協働することで**認知症や地域課題を共有し見守り意識が向上した。**

○小学生から「去年も訓練に参加した」と声があがる等、認知症への理解が深まっていると実感。



- ② チームオレンジのヘルスサポートリーダーと一緒にふれあいフェスタにブースを出展
オーラフレイルと認知症の関連を啓発



- ③ ふれあいフェスタにて徘徊高齢者声掛け訓練を実施。
声掛けしていただいた参加者の方に作成いただいたロバ隊長を配布

子どもから多世代を巻き込んだ包括PRや認知症啓発

(トヨタ地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

「以前よりも包括の認知度は上がってきているが・・
まだまだ知られていない。
特に若い世代に包括・認知症について知ってもらいたい！」



③効果（見込み）

子どもが参加できるイベントを行ったことで親世代（30代～50代）に包括を認知してもらえる機会が増えた。
全世代へアプローチすることで包括の認知度が向上し高齢者の支援に繋がっていく。



②取組内容・工夫したこと

8月 子ども認知症サポーター養成講座



なんと5歳～85歳までの方々が一緒に認知症を学びました！

9月 今自治区マルシェ



子どもから大人まで参加のイベントで包括PR

認知症ポスター作成



子ども達も書いた認知症の句をポスターで紹介

10月 交流館祭



水風船をとりながらカードの絵を覚える記憶テストに親子で参加

10月 平山オータムフェスタ

大人も子どもと一緒に脳トレ



11月 久遠5周年祭



活動はホームページで紹介

地域課題についての意見交換会

(地域包括支援センター保見の里)

①目指す姿・困っていたこと

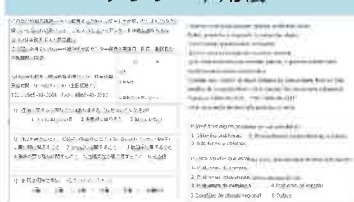
地域住民からエレベーターがないのでゴミ捨てに困っているという声。課題解決に向けて地域住民と話し合いを行った。

③効果（見込み）

- ①意見交換の機会を通じ、住民同士で地域の現状と課題を共有できた
- ②住民が地域の課題を「わが事」と捉えるきっかけ作りができた
- ③自治区区長と戸別訪問しアンケートを実施することで顔の見える関係ができた

②取組内容・工夫したこと

アンケート用紙

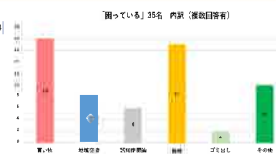


地域課題抽出のため自治区区長と一緒に戸別訪問しアンケート調査
外国人住人も多いのでポルトガル語表記も作成

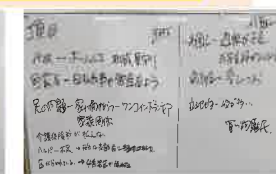
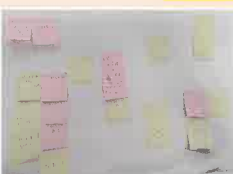
資料（抜粋）

保見ヶ丘6区
地域包括支援センター保見の里合同アンケート
調査対象：自治区に登録のある75歳以上の方 121名
(有効回答数82名)
方法：訪問聞き取り（不在時質問紙配布し回収）
期間：2025年5月～7月にかけて週1回/1時間半ほど

地域住民招きアンケート結果共有



KJ法用いアンケート踏まえた住民同士の意見交換



トヨタの工場でワクワク認知症啓発！

(つつみ園地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

トヨタという大企業の中でも認知症に関して「知らない」、「わからない」人が多くお困りのご家族や当事者がいる。認知症の方にも優しい地域/企業を目指す！

②取組内容・工夫したこと



身内の介護経験
はありますか？

"ない"が多数

地域包括支援
センターを
知っていますか？

アンケートにお答えいただいた方全員に“PRグッズ”、包括ちらし、認知症啓発ちらし、これってもの忘れ？、かえるメールとよたを配布しました！

③効果（見込み）

- 地域住民や企業の方々から様々なご意見や介護の体験談などを伺うことができた。
- 多世代に対し、介護に関する興味関心を深めることができた。
- 【介護/認知症などで困った時は、つつみ園に相談！】という周知ができた。

メッセージカードで多世代交流

(地域包括支援センター益富の楽園)

①目指す姿・困っていたこと

- 一人暮らしの高齢者が、地域で孤立しないように、地域とのつながりを感じながら生活をしてもらいたい。
- 地域住民に高齢者への支援について知ってもらいたい。

②取組内容・工夫したこと

これまでも毎年、一人暮らし登録を行っている方を対象にお誕生日カードを作成し、**お誕生日月に訪問してカードをお渡し**してきた。

誕生日カードを
広げると・・・



小さい子の言葉
は元気になるわ



③効果（見込み）

- 包括**
訪問時にご様子の確認ができ、継続的な繋がりを持つことができた。
- ご本人様**
包括に相談ができる機会となった。また地域に応援者がいることを知り、地域で生活していく上での励みとなった。
- 地域住民**
地域に一人暮らし高齢者がいることや、子の親世代に制度を知っていただく機会となった。



地域カフェでの地域住民との関係づくり

(笑いの家地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

☹️ 松平地区内で地域カフェが発足(計5か所)し、運営についてや活動状況などを地域の方から相談・報告されることあり。

↓

👥 地域の現状を知るため、また困りごとの早期発見のため、包括の周知のために、地域住民の身近な場所に関係づくりを行う。

③効果(見込み)

💡 地域住民の困りごとや疑問に対し早期に対応できるようになった。

💡 地域カフェの運営に関わる方、駐在所など地域でキーになる方との関係づくりができた。

💡 地域包括支援センターと気軽に話をして、相談することができるようになったと、身近な存在として認識してもらうことができるようになった。

②取組内容・工夫したこと

👥 地域カフェからの依頼もあり、毎月包括職員が1名以上で訪問させていただくことに。5か所あるため担当表をつくり、月替わりで地域カフェに出向き、**消費者被害についての注意喚起**やイベントのお知らせ、**地域の実情の把握・情報共有**に努めた。



📧 依頼を受けて、防災グッズに関するチラシを作成して配布

9月<アルツハイマー月間>は、ミニ講座として認知症に関する話を15分程度させていただきました。

あるカフェから、毎回5分程度、高齢者・地域住民に関わるトピックで話をしてほしいと依頼を受ける

消費者被害の注意喚起
防災対策についてなど...

カフェから包括への依頼も増加

昨年度、認知症サポーター養成講座を実施したカフェに、今年度はステップアップ講座を実施させていただきました。



Nピアを利用した認知症サポーター養成講座の開催

(地域包括支援センターとよた苑)

①目指す姿・困っていたこと

介護従事者向けの『認知症』に対する意識を変え、地域の中での暮らしにも目を向けてもらいたい。

③効果(見込み)

「新しい認知症観」の理解と地域で暮らしている認知症の方が長く地域で暮らしていけるような見守り体制の構築を検討できる。



②取組内容・工夫したこと

○介護従事者向けに認知症サポーター養成講座を実施

★Nピア事業の活用で当事者の方からの話を聞く機会を持つことで思いを知ってもらう

生活の困りごと

Nピア事業

認知症当事者の方がピアサポートの場や講座やイベントなどで話をしてもらう事業

えぬ
Nピア
(Nの意味:認知症・なかま)

治療や薬のこと



利用者さんの『知りたい』に応える！ ～介護保険・保険外サービス案内スムーズ化への挑戦～

(ひまわりの街地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

・利用者の
「どんなサービスがあるの？」に
その場で答えたい！

しかし

- 人事異動で新任職員が増え、情報活用に差がある
- 紙資料中心で探すのに時間がかかる
- 保険外サービスや社会資源の最新情報が分からない

②取組内容・工夫したこと

ロールプレイ

新しい相談にどう対応しているのかを比較
包括歴2ヶ月目の職員（職員A）と
13年目の職員（職員B）では
対応力にどのような差があるのか可視化



【結果】新任職員は…

- ×資料探しのための離席が長く、相談者を待たせる
- ×新任職員の話が長く、本人達の話が少ない
- ×提案した内容の間違いが多い



やってみよう

【対策】

離席せずに本人らの話を聞き、正確な提案ができるよう、Googleサイトで介護保険・保険外サービスを一覧化・共有する仕組みを構築することにした。

③効果（見込み）

新任職員の対応が…

- ★資料を探しに席を外さなくなった
相談者の待ち時間がなくなった
- ★本人・家族が話をする時間が
長くなった。22%→**38% UP!**
- ★提案した内容の間違いが減った
正答率 33.4%→**92.7% UP!**

- 「知りたい」に即応できる
相談体制を実現
- 職員の自信とチーム力が向上



紙資料を整理し、必要情報を厳選

Googleサイトで介護保険・保険外サービス
データベース構築

生成AI・専門職研修、操作手順書を整備

全職員が更新できる体制づくり

その場で
すぐ提案！
資料提示が
可能に！



ささえあいネットワーク協力店と一緒に高齢者の集いの場への
コーディネート支援を考える

(みのり園地域包括支援センター)

①目指す姿・困っていたこと

○介護が必要になった時は「みのり園に
相談する」ことは、理解できていても、
「なんとなく敷居が高いと感じる。
受付に知っている職員（包括職員）も
いないし。」という声が届く。

○認知症や介護が必要になっていても
サービスを利用できていない人も多い
(関係機関に繋がらず、随時包括が
見守り訪問でとどまっているケースも)

②取組内容・工夫したこと

近隣にあるささえあいネット協力店は、普段から通報を入れてくれたり、
温かく見守ってくれている。ささえあいネットワーク会議を開催して、
高齢者の見守りのこと情報交換をしたい。

⇒日程調整が難航し、ささえあいネットワーク会議には至らなかったが、
7月から11月にかけて 1件ずつ丁寧に訪問し、話を伺うようにした。
自治区、民生委員、みのり園近辺のささえあい協力店舗等（5件）、認知症カフェ等

「みのり園のお祭りに協力して、地域住民の集いの場支援」



地域住民の参加：107名
60歳以上が、48名（男18名、女30名）

③効果（見込み）

○あるエステ店では高齢者の悩み相談を受けていた等、日頃の取り組みが知れた
新規ささえあい協力店勧奨1件に繋がる

○新規申請の相談・ケアプラン数の増加
担当地区内に相談窓口が周知されてきていると考える

○今年からはじめた認知症カフェ定着に
役立ち、ボランティアスタッフのモチ
ベーションもup。
**来年度以降も継続して
認知症カフェ運営ができる見込み。**

